

【エッセイ】「私達の事をもっと知って欲しい。」

この言葉を耳にしたあの瞬間から、私の中の何かが変わった。

それは、私がボランティアに参加させて頂いた時のこと。そのボランティアは、福祉施設で行われるイベントのスタッフとして進行のお手伝いをするものだった。そのイベントの終盤に、身体に障害を抱えている方々とコミュニケーションをとる事を目的とした企画があった。

私はその企画中、5人程の話を聞くことが出来た。その内の1人の男性の話を今でもしっかりと覚えている。彼は仕事上の事故で片手が不自由になってしまった事がきっかけで、今は福祉団体に働いてるという事だった。彼は後天的に障がい者という立場になり気が付いた事を話して下さった。

「私が障がい者という立場になって気が付いたことは、障害を抱えている人はそれを自分のデメリットだとは思わず、前向きに生きているという事だ。」と。

確かに彼以外の殆どの方も口を揃えて「自分が抱えている障害をデメリットだとは思っていない。」と仰っていた。

その後、彼は「私は私達の事をもっと知って欲しいと思っている。その為に、もっと多くの人と交流がしたい。」と話して下さった。

私はボランティアが終わった後、彼の話を受け部屋で1人考えていた。今までの自分を思い返してみると、私は障がい者の方々に対して、可哀想という様な同情心を抱いていた事に気が付いた。

これはきっと私だけではなく、殆どの方が抱いてしまう感情だと思う。だが、この感情は相手からすれば1番抱いて欲しくない感情なのだった。

この事に気が付いたことで、障がい者の方々に対する私の考えが変化していった。そして、それと同時に福祉というものに興味を持ち始め、幾つかのボランティアにも行った。そして、私は3年生である今、社会福祉士になるという夢を見つけ、その夢を叶える為に受験生としての日々を過ごしている。

いつの日か「障害を抱えている方々のことをもっと知ってほしい。」と、言うことが出来る日を迎える為に。